こまざわ経済通信

発行
駒澤大学経済学部
同窓会
〒154-8525
東京都世田谷区駒沢
1−23−1

駒澤大学の更なる発展を

経済学部同窓会　会長　勝　場　政　範

駒澤大学は去る十月十五日大谷学長のもと記念すべき百二十周年を迎えることができました。ここに改めて同窓生の皆様と共に心からおよろこびを申し上げます。

既に、ご周知の通りＩＴ（情報技術）の出現により駒澤大学も百二十周年が過去とＩＴが支える新しい技術革新元年の節目の年でもあります。もはや狭い殻と避に閉ざされることなく「う余曲折」はあるにせよスピーディーにＩＴに支えられた「ニューエコノミー」が生れ発展して行くものと思われます。

このことが、心と産業を両立（駒澤大学で言う「行学一如」かどうかよくわかりませんが）させ新しい時代の産業に発展するチャンスだと思います。

駒澤大学も大谷学長の「二十一世紀プラン」を拝読する限り、このことの重要性はわたくしたちにも十分理解することができます。後は具体的な手順等を織込んだ実施計画を未来を託す中学生・高校生と社会に向けメッセージを発信することが大事であります。

特に内部にあっては人事の改革が一番大変で避けて通れない問題だと思います。時代が根本的に変るときは人心を一新するものです。

戦後、長い間培って来た社会のシステムが一定の役割を終え、あらゆる分野において流れが変る（構造改革）最も困難な節目にさしかかっております。早いところでは具体的な方向生を出して走り出した大学・企業（とりわけベンチャーと呼ばれるニュービジネス）もあります。

今後は地方の活性化と皮弊した都市部の再生が一層強く求められた地方と都市部共に新しい時代の特色ある発展を願って変化しつつあります。（しかし未だにその整合性は混沌として不透明）。

大学を進学希望する若者も選ぶ基準が具体にわかりやすい条件の中から選択して決めるのではないでしょうか…。

小学生・中学生・高校生をもつ同窓生の皆さんも自分が大学で学んだ時代と今とお比較しながら母校駒澤大学へ（学長に直接届く方法で）助言・提言をしていただければ大学にとっても何よりの財産だと思います。

最後に駒澤大学の発展と同窓生のご活躍・ご健康並びにご多幸を心からご祈念申し上げます。

「経済学」の教育にあたって

経済学部長　阿　部　弘

わたしたちが「経済」を問題にするき、この概念がヨーロッパ的な「エコノミー」とはどこか一致していないような印象をもつし、また、現代経済の中心をなしている「市場経済」も「マーケット・エコノミー」とは何かしらニュアンスを異にしているように思われるのです。したがって「経済学」を教育して行くにあたっては、これらの概念の根底にあるものをしっかりと見据えておくことが重要になります。

まず第一に「経済」とか「エコニミー」について考えてみましょう。「経済」は「経世（国）済民（衆）」の短縮語です。この言葉は紀元前一〇〇〇年位に用いられ始められました。その内容は、世の中（国）を君主が始めて行くのですが、それは民衆の生活を安定させることに意義がある、ということでした。中国ではこの意味で十九世紀終りまで「経済」が用いられるのですが、時の移りと共に、政治術に力点が置かれ、日本に江戸時代中期にこの考え方が入ってきた時にも「民衆の生活を安定させる」という観点は重視されずに、しかも輸入思想だったということもあって、儒学者の教説という感が強かったのでした。この様な状況の中にあって民衆は治められるものとしての受動的立場に置かれていたのでした。

さてヨーロッパ的な「エコノミー」も実はイエとか国を運営して行くことを意味していたのがその源義になります。しかしながら、商品経済の発達はこういった運営の主体の中に商人も加えることになり、マーケットという商品交換の場を通じてイエの主人と商品の担い手が対等な契約を通じて生活をして行くということが支配的になって生きました。ここにエコノミーはマーケットを通じてこそその真の意義が発揮されるようになってきたのです。

中国の場合には、商人というのは文字通り商族の人ということであり、殷から周へと国家が移り変わったときに殷はまた商とも呼びましたので、いわば被征服民族としての商族の職業として商業ができたのと、市場が、国家が必要な戦略物資を治めさせたり、税金を徴収したりする制度でしかなかったことが、市場と経済を結びつけることはしませんでした。

以上で考えてきましたように、市場経済とマーケット・エコニミーは、同じように感じられても、本質的に異なるものであり、このような中で、貿易摩擦や、市場解放といったことを観て行く必要があるのでした。

四季報

早くも師走を向かえる季節となりました。この一年長く感じた、短く感じた人いろいろいらっしゃると思います。大学も120周年を迎えました。そのなかで経済学部も6年後には60周年を迎えます。大学の発展と供に、経済学部も経済同窓会もより一層の発展のためにも充実した年を1年、1年大事にしていかなければならないと思います。少子化がますます進み大学の危機が叫ばれるなか、大学においては教員、職員一体となって、諸々のことに取組んでいかなければなりません。これらの後押しをしていただけるのが、母校を愛す同窓生の方々だと思います。特に経済学部同窓生の皆様には絶大なる様々のご支援よろしくお願いいたします。最後に同窓生皆様の健康を祈願し新春を迎えられることを願います。

経済学部ゼミシリーズ

★瀬戸岡ゼミ

現役生から卒業生へのメッセージ

二十六年という約四半世紀の歴史を刻む瀬戸岡ゼミ。ゼミ生の人数も3学年合計で、約130名の大型ゼミ。“学生主体のゼミ”を目標に掲げ、常に目標を持ち、さまざまな活動をしています。2年生の時より共同論文の作成に携わり、日本学生経済ゼミナール全国インター・東京インナー大会に参加します。

他大学の学生と議論を交わすことによって、自分達の成長と共に駒澤大学経済学部の名を世間に広めてきました。4年生の卒業論文と2年生、3年生の共同論文は、毎年製本され、OBの方々に送っています。力を入れているものは勉学だけでなく、去年の経済学部ソフトボール大会では、4年生擾勝、3年生準優勝という快挙を成し遂げました。

〈近況報告として〉

2年生、3年生は十一月に行われる東京インナー大会（会場…文教大学）、立命館大学との合同特別討論会、十二月の全国インター大会（会場・名城大学・日本福祉大学）の準備に奔走しています。4年生は厳しい就職活動を終え、今は卒業論文の作成に追われています。また、前述したインナー・インター両大会の各分科会で議長役を引き受けている我がゼミの学生も多く、まだまだ学生生活を満喫できそうです。

〈卒業生へのメッセージ〉

私達が何気なく過ごす駒澤キャンパス。卒業生の方とは建物の増減など、多少違いはあっても、大学そのものが持つ魅力は変わらないと感じています。

卒業生の方々が積み上げてきたものを私達もまた無意識のうちに積み上げているからでしょうか。箱根駅伝では応援し、優勝すればやはり嬉しいものです。駒澤大学出身というだけで、なんとなく親しみが湧く、この“駒澤遺伝子”を、たとえ顔は知らずとも、卒業生から受け継いでいるんだと感じます。これから私達は社会人として卒業生の方々と出会うことがあるかと思いますが、そのときは駒澤の先輩として、そして何より人生の先輩としてご指導していただきたいと思います。

〈最後に〉

駒澤大学経済学部の同窓会という非常に大きな行事の挨拶文を書かせていただけたことを、とても誇りに思います。

駒澤大学　経済学部
経済学科
4年生　下山　毅
（瀬戸岡ゼミ　第25期ゼミ長）

★徳永ゼミ

先輩のみなさん、お元気ですか？

徳永ゼミも23年目になります。OB・OGは330人ほどになりました。先生は55歳になりますが、若さは変わりません。私は現役で23年間を知っているわけではありませんが、先生から聞いたことも含めてゼミの近況を報告したいと思います。

ゼミの対象は第3世界、とくにアジアですが、モノ・カネのことより「人間」にスポットを当てて考えています。世界の主人公は「人間」だ、だから「人間」を軸にして考える訓練をしようということです。むずかしいですが、勉強していくうちにだんだん見えてくるような気がします。

春・夏の合宿は2泊3日、ここ数年はもっぱら人生論をやっています。「愛する」とか「幸福」とか、普段じっくり考えることのない問題に取り組みます。生活が深くなります！

1986年からは毎年東南アジアへ研修旅行をしています。これまでフィリピン・ベトナム・インドなど11か国へ行きました。私は昨年韓国研修に参加しました。

独立記念館や刑務所跡などで日本の朝鮮支配について勉強し、柳寛順ちゃんという少女などが命をかけて闘ったことを知りました。あるバス停で幼い頃を日本の支配下で過ごしたというおばあちゃんが話しかけてくれました。小学校で日本語を話すことを強制されるなど辛い体験を語ってくれました。そして、日本の歌を歌ってくれました。私は戦争の傷跡を目のあたりにして、真実を見た気がしました。

最後に、このところ徳永ゼミは女性が多くなったことを謹んでご報告申し上げます。先生は「ぼくの人気だ」と言われますが（？）、何はともあれ楽しいです。ゼミは、私の人生に新しい変化を与えてくれています。

諏訪仁美（3年ゼミ）

★里中ゼミ

里中ゼミを第一回目の卒業生が出てから（1969年、昭和44年）30年余りが経ちました。早期に卒業されたOBはそろそろ定年に近い年齢に達する頃です。ゼミの先生自身の方も60歳台半ばになりました。先生の専攻が財政学でしたのでゼミではマクロ経

経済学に基づいた財政政策を勉強してきました。最近はとくに公債累積と経済の関係を勉強しています。これまでは大学院をとおして税理士試験科目の一部免除の制度があったため税理士を志望する人々が大勢、このゼミで学びました。里中ゼミで30名以上が修士号を取得し、それぞれ税理士等として社会で活躍しています。本年の大学院入学生からは法律が変わってこの制度は制限されます。

ゼミのやり方は相変わらずです。赤字財政や税金についての新聞や経済専門誌が読めるように、専門用語や学術用語の訓練をします。テキストの文章を中心に先生が一問一答のかたちで進めます。一回の時間に一人4、5回は答える順番が回ってきます。この過程でゼミ生は自分で考え、発言することにより自己主張できるようになっていきます。小人数のなかで会話が飛び交い、討論が進むうちに自分の力で財政にかんする考えが持てるようになることを狙っています。4年の卒業研究は12月に2日間を使って全員が一人約1時間ずつ発表する機会が設けられます。

ゼミ対抗のソフトボールには毎年参加しています。過去4回の準優勝の経験がありますが、近年は参加チームが多くだんだん上位に入るのが難しくなってきました。それでも賞金にありつけなかったことはないので、コンパや飲み会の足しになると思っていつも気合がはいります。卒業生の皆様のご健勝を祈ります。

★吉野ゼミ

ゼミの代表として、今回、演習Ⅰ（二年）の面々が初見参です。残念ながら、メンバー全員が勢揃いがいしての登場とはなりませんでした。

授業の時間帯と撮影当日の天気のせいにはしたくはありませんが、少し反省の余地がありそうです。

情報センターの教場を使って経済学の勉強にとり組んでいます。単利・複利の話から、現在価値に割引くことのとらえ方を経て、「投資の限界効率」の考え方やゴールシークのツールを使って計算例から解を求めるところまで進んでいます。どうしても数式が出てきますので取っ付きにくいところもありますが、数値例をたくさん試してみたり、結果をグラフ化したりすることで、内容の理解に努めたいと思います。

流行の軟派のゼミではなく、どちらかといえば硬派のゼミでしょう。時々は早めに授業を打ち切って、お休み処パオでコーヒーを飲みながら疲れを解消しています。

★森岡ゼミ

私達、森岡ゼミは少人数ながら、他のゼミに引けを取らない楽しっかりと学ぶ事の出来るゼミです。少人数の為、多数のゼミで行われているであろう、論文の発表は行う事はできません。「そんなものはゼミじゃない。」とか「遊んでいるのと変わらない」と言う方がいるとしたらそれは大きな誤解であり、かつ、森岡ゼミを甘く見ています。

何故なら、論文の発表が無いという事は、常に発表であり、最近の出来事を踏まえてアドリブで話さなければならないからです。つまり台本無しで本番に立つという事です。常にニュースには気を配っていないとついていけません。かと言って難しい事もありません。

私達森岡ゼミは、人口論の中の少子化問題を取りあげているのですが、これは身近な問題です。自分達の周囲で以外と見つかるのです。つまり、周りに向ける視野を広くすれば、論文を書かなくとも、頭の中で作り話す事が出来るのです。また、少人数である事は、堅苦しさが無く、楽に聞けるのです。

つまり、すんなりと頭に入るのです。そして、皆の話す内容は身近な問題、例えばバイトをしていて気が付いた事、などである為、自然と解りやすいのです。参考書が一応ありますが、あくまで参考であり、資料の一つでしかありません。学ぶものは周りに多くあるからです。

私達のゼミは少人数の為、合宿等はありませんが、その分内容はしっかりしたものです。他のゼミより人が少ないからつまらないゼミと思われがちですが、人数でゼミの良し悪しは解りません。多人数だから得をするというものではありません。少人数だからこそできる事も多々あるのです。

私達の森岡ゼミは、他のゼミに決して負けない内容と楽しさを持つゼミです。

森岡ゼミ　執筆者
津久井　和磨君
（三年生）

卒業式で経済学部同窓会会長賞を授与

経済学部同窓会は、平成１４年３月２５日挙行された卒業式で、経済学部の学生で優秀な成績を修め、人物共に優れた者９名に「経済学部同窓会会長賞」を授与した。表彰候補者は教務部で選考され、経済学部教授会で審議の結果選出された学生で、表彰されたのは以下の９名です。

経済学科

学生番号	氏　名
EK8301	中　山　久美子
EK8104	嶋　田　恭　子
EK8039	岩　下　貴　文

商学科

学生番号	氏　名
ER8325	若　松　絵　里
ER8225	田部井　裕　子
ER8032	菊　島　見　羊

第2部経済学科

学生番号	氏　名
EB8011	前　田　　進
EB8045	加　藤　芳　洋
EB8103	矢ノ木　省　二

表彰式は、経済学科ＦＡ、商学科、経済学科ＦＢの各教室にわかれ、表彰状と記念品がそれぞれの学生に授与された。

経済学部同窓会は今後とも学業成績のみならず、部活動やボランティア活動など様々な分野で活躍し、顕著な成績や行いをした者を表彰することにしています。

第十二回

経済学部ゼミ対抗ソフトボール大会
－優勝　瀬戸岡３年ゼミ－

今回、私は初めて経済学部のソフトボール大会に参加させていただきました。各々のゼミはそれぞれ掲げている経済学のテーマに向けて日々ゼミ全体で協力しあって勉強しているわけですが、今回のようなソフトボール大会に参加することにより、更なるチームワーク、仲間との絆を強め、それぞれのゼミの良さを改めて知ることができたのではないでしょうか。ソフトボールに限らずスポーツ、特に団体で競技することは不思議なもので、その競技をすることで自然にコミュニケーションを取ることができ、たとえ普段あまり話さなかったような人とも、その壁を取り除くことができます。また、たとえ競技に直接参加しなくても、応援などで参加することでグラウンドの９人と一体化して競技できるという素晴らしさがあります。私たちは結果的に優勝することができましたが、これは競技を実際やった９人だけではなく、応援してくれた人たちみんなの力があったからこそだと思います。各ゼミの方々も非常に連帯感があり、更なるゼミの発展の機会になったと思います。このような大会、機会がこれからも続いていくことを強く願ってやみません。

最後に、このような機会を与えてくださった実行委員の方々、先生方に感謝します。ありがとうございました。

（瀬戸岡ゼミ３年　金子尚睦）

☆ 経済学部同窓会は、毎年このソフトボール大会に優勝からベスト16位まで賞品を授与しています。

経済学部創立五十周年記念誌プレゼント

経済学部創立五十周年を記念して経済学部が刊行した「経済学部創立五十周年記念号経済学、論集三十一巻第三号」白桃書房（箱入り、二百八十五頁）を希望者二十名に差し上げます。
希望される方は、希望著書、郵便番号・住所・氏名、卒業年度をご記入の上
「〒158―8525世田谷区駒沢-23-1　駒澤大学経済学部　谷敷正光」
までお知らせ下さい。先着順にお送り致します。誠に申しわけございませんが、送料は着払いにてお願いいたします。

《同窓生の皆様へお願い》

住所変更、氏名変更等が生じた場合は、大学同窓会事務局へご一報ください。
〒154-8525　東京都世田谷区駒沢1～23～1
駒澤大学経済学部同窓会　03～3418～9189